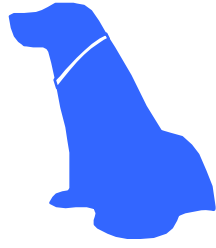


イヌのクローナリティー解析の改良



イヌのリンパ腫・リンパ性白血病の検査としてクローナリティー解析(遺伝子再構成解析)が一般的となりましたが、本解析では異常を検出できない症例が1割前後存在します。特に、Tリンパ球のモノクローナルな増殖(腫瘍性増殖)の検出率が、Bリンパ球の検出率よりも低いと言われています。

イヌのクローナリティー解析を**世界で初めて開発した研究グループ**から、**Tリンパ球のモノクローナルな増殖の新たな検出法**が2012年1月に報告されました。ケーナインラボではこの報告を参考に、Tリンパ球の新しい検出法を導入しました。従来の方法よりも**検出率が若干改善**しました。解析結果を掲載しましたので、ご参照下さい。

新旧検査の精度の比較

細胞診によりリンパ腫と確定診断のついた345症例(リンパ芽球の著しい増殖)、および反応性過形成/リンパ節炎と診断された41症例(成熟リンパ球と炎症性細胞が出現)、それぞれについて従来の方法と改良された方法の検出率を比較しました。

リンパ腫(345症例)

検査結果	従来		改良後	
	割合(症例数)		割合(症例数)	
Tリンパ球に異常	13.9% (48)	90.1% (311)	15.9% (55)	92.1% (318)
Bリンパ球に異常	72.7% (251)		72.7% (251)	
T・Bの判別はつかないが異常	3.5% (12)		3.5% (12)	
異常検出されず	9.9% (34)		7.9% (27)	

*括弧内は症例数

従来の方法では異常が検出されなかった34症例のうち、改良後にTリンパ球に異常が検出されたものが7症例ありました。検出率の合計も従来法の90.0%から92.0%に上昇しました。

反応性過形成/リンパ節炎(41症例)

検査結果	従来		改良後	
	割合(症例数)		割合(症例数)	
Tリンパ球に異常	0% (0)	7.3% (3)	2.4% (1)	9.7% (4)
Bリンパ球に異常	7.3% (3)		7.3% (3)	
T・Bの判別はつかないが異常	0% (0)		0% (0)	
異常検出されず	92.7% (38)		90.3% (37)	

*括弧内は症例数

従来の方法では異常が検出されなかった症例のうち、改良後にTリンパ球に異常が検出されたものが1症例ありました。しかし、細胞診で非腫瘍性と診断された症例の90%の症例で異常は検出されなかったことから、改良後も特異度の高い検査であると考えられます。ヒトでは、形態学的に異常は認められなかったものの、クローナリティー解析により異常が検出された一部の症例において、その後リンパ腫に至ったという報告があります。このような場合には、イヌにおいても臨床経過を慎重に見守る必要があります。

株式会社 ケーナインラボ

〒184-0012

東京都小金井市中町2-24-16

農工大・多摩小金井ベンチャーポート302

電話:042-401-2291(代表)

042-401-2294(検査室)

FAX: 042-382-7384

HP: www.canine-lab.jp E-mail: info@canine-lab.jp



検体集荷

株式会社 モノリス

〒182-0012

東京都調布市深大寺東町8-31-6

電話:042-443-7200(代表)

042-443-6181/6183(集荷)

FAX: 042-443-6182

